

令和 4 年 6 月 11 日現在

機関番号：12101

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2021

課題番号：17K02249

研究課題名(和文) 神道灌頂に関する総合的研究 神仏習合の資料学的再構築

研究課題名(英文) Comprehensive Study on Abhisheka Shinto : Philological Reconstruction of the Combination of Kami-worship and Buddhism

研究代表者

伊藤 聡 (ITO, Satoshi)

茨城大学・人文社会科学部・教授

研究者番号：90344829

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：中世から近世にわたる神道灌頂資料の調査を通じて、近代に廃絶してしまった神仏習合の儀礼を復元しようとした研究である。

調査地は真福寺(名古屋市)、西福寺(京都府井手町)、金剛寺(日野市)を中心として定期的に現地調査を行った。連携研究者や研究協力者の協力を得て、その研究成果は、真福寺資料については、『真福寺善本叢刊』シリーズの『麗気記』及び『御流神道』の巻に収めて刊行した。また、西福寺、金剛寺資料については、伊藤聡編『寺院文献資料学の新展開』の一冊として刊行、その中には主要な神道所の翻刻・解題とともに、西福寺及び金剛寺の神道書目録を収めた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

神道というと、日本固有であることが常に強調されるが、歴史的には神仏習合の時代が長く続いていたのである。しかし、明治維新の神仏分離以後、神仏習合の伝統は失われてしまった。そのため神道灌頂のような神仏習合に関する資料の多くは、未だ十分な調査が行われないまま、全国の寺院や保存機関に眠っている。このような資料調査を通じて、その存在と文化的意義を知らせることは、極めて重要である。なぜなら、このような作業を通じて日本文化は外来の文化と在来の文化が結びつき、融合しながら形成されてきたことが見えてくるからである。現代における異文化理解の問題を考えると、このような過去の営みは大いに参考になると考えられる。

研究成果の概要(英文)：This research attempted to reconstruct the Shinto rituals of Combination of Kami-worship and Buddhism, which had been abolished in the modern era, through a survey of Abhisheka Shinto (rituals of Shinto perfection) materials from the Middle Ages to the early modern era. Fieldwork was conducted regularly at Shinpukuji Temple (Nagoya City), Saifukuji Temple (Ide Town, Kyoto Prefecture), and Kongoji Temple (Hino City). With the help of cooperating researchers and research collaborators, the results of this research were published in the volumes "Reikiki" and "Goryu Shinto" of series of "Shinpukuji Zenpon Sokan" for the Shinpukuji materials. The Saifukuji and Kongoji materials were published as a volume of "New Developments in Temple Documentation Studies," which includes reprints and explanations of major Shinto shrines, as well as a catalogue of Saifukuji and Kongoji Shinto texts.

研究分野：日本思想史

キーワード：神道灌頂 中世神道 麗気記 御流神道 玉水流

様式 C-19、F-19-1、Z-19（共通）

1. 研究開始当初の背景

(1) 近代以前の神祇信仰（神道）は、神仏習合を基調としていた。特に密教寺院では神道灌頂という習合儀礼が行われていた。神道灌頂とは、密教に倣った中世神道の秘説伝授の方法として考案されたもので、中世を通じて仏教系の神道流派のなかに広がり、さらに近世以後も各地の密教寺院等に継承された。その種類も多様で、まさに神仏習合の典型的儀礼である。

(2) しかし、明治維新の神仏分離の結果、その伝統は廃絶してしまい、継承されないまま忘れ去られてしまった。

(3) 現在でも全国の密教寺院には神道灌頂に関する資料が残されているが、その多くが十分な調査や保存のための措置がなされないままである。

(4) しかしこれらは、日本の宗教文化の多様性・複合性を証言する重要な資料であり、その全貌の解明が待たれる。本研究はその一部を成す複数の密教寺院所蔵の資料についての調査研究を行うものであった。

2. 研究の目的

(1) 本研究は、各地寺院等に残された神道灌頂関係資料を収集・分析して、この失われてしまった宗教儀礼を再構成することを目的とする。

(2) 〈神道灌頂〉関係資料を一括して残す①真福寺（名古屋市中区）、②西福寺（京都府綴喜郡井手町）、③高幡不動金剛寺（東京都日野市）の3寺院を中心に、その他調査・研究を行い、〈神道灌頂〉という儀礼の形を現代によみがえらそうとした。

(3) 具体的には、一次資料の調査を元に〈神道灌頂〉を共時的・通時的に復元することを目指した。この作業を通じて、失われた〈神仏習合〉の世界を、資料学的に再構築しようとするのを企図したのである。

(4) 〈神仏習合〉の研究は、近年東アジア世界に共有する現象としてとらえられるようになり、その関心も研究対象も多様化している。このことはあらためて日本の〈神仏習合〉文化の特色を再考する契機ともなっている。

(5) そのためには、〈神仏習合〉文化の内実により深く分け入って、他の地域との差を探ることが必要である。しかし、近代の神仏分離・廃仏毀釈により、〈神仏習合〉は現代人には縁遠いものとなっており、仏教的要素を排除した現行の儀礼が、長い伝統を持つものだという誤解も生じている。

(6) 研究代表者は、現在も各所に散在している一次資料を発掘・収集・精査・統合することで日本における〈神仏習合〉の歴史的・思想的・文化的実相を復元することに努めてきた。中近世の〈神仏習合〉の実態は、一次資料の収集と、その精緻な読解からしか浮かび上がらない。〈神道灌頂〉の調査研究においても同様の研究手法を採用した。

3. 研究の方法

(1) 真福寺・西福寺・高幡不動金剛寺を主軸とした神道灌頂資料の探査、書誌調査を行った。何れも詳しい書誌を取り、撮影を行い、それらによって得られたデータを整理し目録を作り、必要に応じて翻刻等を行うものであった。

(2) 真福寺については、連携研究者・研究協力者と協力して、御流神道灌頂及び麗気灌頂関係書の基礎的な書誌調査を行った。真福寺には中世後期に行われた御流神道灌頂に関する、作法次第書、道場図、及びそのとき伝受者に対して行われた諸作法の意義を説く談義書が残されている。これらの書誌調査・撮影を行うとともに、資料間の関係について検討し、当時の灌頂の実態を明らかにしようとした。また、麗気灌頂関係資料については、『麗気記』本文と伝授における印信、注釈書が残されており、おおよそ南北朝期の書写と見なされる。真福寺所蔵の他の仏教聖教との比較検討を通じて、これらの書写・伝来の経路についての検討を進めた。

(3) 西福寺には、同寺の住持でもあった活濟という人物が創始した玉水流という御流神道系の流派の資料が残されていた。ここの資料が特に注目されるのは、18世紀において実際に行われた神道灌頂の本尊・道具・指図等の一式が残されていたことで、その整理と目録作りと書誌調査を行った。一連の資料については、本研究開始以前より調査を始めていたが、本研究の期間内におおよそその完成を見た。

(4) 高幡不動金剛寺には、玉水流関連の神道灌頂資料を蔵する事が確認されたため、その書誌調査を行った。本研究開始前の予備調査でリスト作りはできあがっていたので、それに基づいて詳しい書誌データを記録、併せて撮影を行い、期間内にほぼ完成した。

(5) 上記3寺院のほか、富士市博物館、高野山大学図書館、木山寺（岡山県真庭市）において、御流神道関係資料の調査を行うこともできた。

4. 研究成果

(1) 以上の調査研究で得られた成果を元に、2017年度にはリスボン（ポルトガル）で行われたE A J S（ヨーロッパ日本学会）大会において「神道灌頂における宗教的心身論—父母代灌

頂を中心に」と題する発表を行った。また2018年度には、カルフォルニア大学サンタバーバラ校（USA）で行われた「灌頂の世界：仏教文化圏における入門・伝授儀礼の思想と実践」において「麗気灌頂と日本紀灌頂」と題する発表を行った。さらに2021年度にはZOOMで行われたEJ S大会において「胎内十月図の成立と展開」と題する発表を行った。

（2）真福寺調査の成果としては、2019年度に研究代表者が編者となった『真福寺善本叢刊〈第3期〉麗気記』を編集・刊行した。本書には真福寺所蔵の『麗気記』（二種）の影印と解題、『麗気記』の注釈書である『麗気制抄』及び麗気灌頂の印信である『麗気血脈』の翻刻・解題を収めた。さらに2021年度には、これも代表者が編者となり、連携研究者・研究協力者も執筆に加わった『真福寺善本叢刊〈第3期〉御流神道』を刊行した。ここには『神道灌頂大事』『神祇秘記』『御流神道父母代灌頂』等、真福寺に所蔵される御流神道関係の神道灌頂関係資料の影印・翻刻・解題を載せた。

（3）西福寺・高幡不動金剛寺調査の成果としては、2021年度に研究代表者が編者となった『寺院文献資料学の新展開 10 神道資料の調査と研究 I（神道灌頂玉水流と西福寺）』を刊行した。同書には西福寺・高幡不動所蔵神道資料全ての書誌データと解説を付した目録、高幡不動所蔵『御流神道口決』、西福寺所蔵『御流神道灌頂用意』の翻刻と解題等を収めた。執筆には研究代表者のほか連携研究者・研究協力者も加わった。

（4）以上の成果により、神道灌頂に関する複数の重要資料を公開することができた。その儀礼の再構成・復元にまではまだ至らず、解題等によって資料相互の関係等を検討した段階に止まっているが、今後さらに調査地を拡大し、書誌データを蓄積する中で儀礼の実態がより明らかになると期待される。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計19件（うち査読付論文 3件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 伊藤 聡	4. 巻 71
2. 論文標題 両部神道の形成 鎌倉時代を中心に	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 智山学報	6. 最初と最後の頁 7-66
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 伊藤 聡	4. 巻 863
2. 論文標題 中近世移行期における吉田神道の意義	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 歴史評論	6. 最初と最後の頁 55-69
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 伊藤 聡	4. 巻 36
2. 論文標題 崇・天譴・怪異 日本における天災と信仰	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 中国 社会と文化	6. 最初と最後の頁 38-48
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 伊藤 聡	4. 巻 2021年5月臨時増刊号
2. 論文標題 中世神道説と修験道・陰陽道との関係	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 現代思想	6. 最初と最後の頁 351-362
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 伊藤 聡	4. 巻 -
2. 論文標題 忌部正通『神代巻口訣』と忌部神道	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本書紀一三〇〇年史を問う	6. 最初と最後の頁 224-252
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 伊藤 聡	4. 巻 -
2. 論文標題 神道における宗教性と変容	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 社寺会堂から探る 江戸東京の精神文化	6. 最初と最後の頁 103 - 117
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 伊藤 聡	4. 巻 -
2. 論文標題 中世の神仏関係から近世へ 特に神本仏迹説をめぐって	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 神仏融合の東アジア史	6. 最初と最後の頁 642 - 672
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 伊藤 聡	4. 巻 -
2. 論文標題 神道と東アジア	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 東アジア文化講座3 東アジアに共有される文学世界 - 東アジアの文学圏	6. 最初と最後の頁 206 - 210
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 伊藤聡	4. 巻 1
2. 論文標題 『御遷宮宮飾行事』 解題	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 真福寺善本叢刊・神道篇	6. 最初と最後の頁 403-410
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 伊藤聡	4. 巻 1
2. 論文標題 『事相聖教目録』 翻刻・解題	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 寺院文献資料学の新展開	6. 最初と最後の頁 325-340
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 伊藤聡	4. 巻 1
2. 論文標題 『当寺鎮守青龍権現習事』 翻刻・解題	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 寺院文献資料学の新展開	6. 最初と最後の頁 341-347
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 伊藤聡	4. 巻 949
2. 論文標題 胎内五位図について 兔足神社蔵『胎内五位大事』との関連で	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 学苑	6. 最初と最後の頁 384-390
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 伊藤聡	4. 巻 816
2. 論文標題 中世神道・中世日本紀研究の現状	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 歴史評論	6. 最初と最後の頁 5-18
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 ITO Satoshi	4. 巻 42/ 1&2
2. 論文標題 Shinto in the Muromachi Period	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Japanese Religions	6. 最初と最後の頁 9-23
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 伊藤聡	4. 巻 特別号
2. 論文標題 東泉本『太祝詞』について 影印・翻刻と解題	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 六所家調査だより	6. 最初と最後の頁 18-28
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 伊藤聡	4. 巻 宗教文芸の言説と環境
2. 論文標題 鎌倉時代における僧徒の参宮と仏教忌避	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 日本文学の展望を拓く	6. 最初と最後の頁 242-258
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 伊藤 聡	4. 巻 816
2. 論文標題 中世神道・中世日本紀研究の現状	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 歴史評論	6. 最初と最後の頁 5-18
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 ITO Satoshi	4. 巻 vol.42 Nos.1&2
2. 論文標題 "Shinto" in the Muromachi Period	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Japanese Religions	6. 最初と最後の頁 9-23
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 ITO Satoshi	4. 巻 -
2. 論文標題 Land and People Drifting Ashore: Distorted Conceptions of Japan's Place in the World According to Medieval and Early Modern Japanese Myth	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 The Sea and the Sacred in Japan: Aspects of Maritime Religion	6. 最初と最後の頁 131-138
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計9件 (うち招待講演 3件 / うち国際学会 3件)

1. 発表者名 伊藤 聡
2. 発表標題 胎内十月図の成立と展開
3. 学会等名 EAJS: 16th International Conference of the European Association of Japanese Studies (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 伊藤 聡
2. 発表標題 両部神道の形成 鎌倉時代を中心に
3. 学会等名 第64回智山教学大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 伊藤 聡
2. 発表標題 中近世移行期における吉田神道の意義
3. 学会等名 2021年度日本宗教史懇話会サマーセミナー（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 伊藤 聡
2. 発表標題 中世神道説と修験
3. 学会等名 山岳修験学会 特別例会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 伊藤 聡
2. 発表標題 空観房如実と賀茂流について 覚城院蔵『結縁灌頂丹州巖辺寺記』をめぐって
3. 学会等名 第5回 寺院資料調査 研究報告「経蔵再生 覚城院聖教とその魅力」
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 伊藤 聡
2. 発表標題 祟・天譴・怪異 日本における天災と信仰
3. 学会等名 中国社会文化学会、東京大学東アジア藝文書院 (EAA) 共催 (招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 伊藤聡
2. 発表標題 麗気灌頂と日本紀灌頂
3. 学会等名 灌頂の世界：仏教文化圏における入門・伝授儀礼の思想と実践 (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 伊藤聡
2. 発表標題 神道灌頂における宗教的心身論 父母代灌頂を中心に
3. 学会等名 EAJS: 15th International Conference of the European Association of Japanese Studies (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 伊藤聡
2. 発表標題 覚城院蔵『当寺鎮守青龍権現習事』の紹介
3. 学会等名 覚城院聖教調査進捗報告会
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計8件

1. 著者名 伊藤 聡	4. 発行年 2021年
2. 出版社 KADOKAWA	5. 総ページ数 498
3. 書名 日本像の起源 つくられる 日本的なるもの	

1. 著者名 伊藤 聡、八幡 堯文、鈴木 英之、大東 敬明、稲谷 祐慈、中山 一磨、木下 佳美、落合 博志、小宮 俊海、向村 九音、有賀 夏紀、木下 智雄、柳瀬 千穂	4. 発行年 2021年
2. 出版社 臨川書店	5. 総ページ数 595
3. 書名 寺院文献資料学の新展開 第10巻 神道資料の調査と研究 (神道灌頂玉水流と西福寺)	

1. 著者名 伊藤 聡、大東 敬明、鈴木 英之	4. 発行年 2021年
2. 出版社 臨川書店	5. 総ページ数 376
3. 書名 真福寺善本叢刊<第三期>神道篇(3) 御流神道	

1. 著者名 伊藤 聡、吉田 一彦、曽根 正人、水口 幹記、川崎 剛志、大塚 紀弘、高橋 悠介、森 和也、狭間 芳樹、畔上 直樹	4. 発行年 2020年
2. 出版社 吉川弘文館	5. 総ページ数 308
3. 書名 宗教の融合と分離・衝突	

1. 著者名 伊藤 聡、佐藤 文子、藤本 誠、松本 郁代、井上 智勝、桐原 健真、原田 正俊、高志 緑、西村 明	4. 発行年 2020年
2. 出版社 吉川弘文館	5. 総ページ数 272
3. 書名 日本宗教の信仰世界	

1. 著者名 伊藤 聡	4. 発行年 2020年
2. 出版社 中央公論新社	5. 総ページ数 280
3. 書名 神道の中世 伊勢神宮・吉田神道・中世日本紀	

1. 著者名 伊藤 聡	4. 発行年 2019年
2. 出版社 臨川書店	5. 総ページ数 488
3. 書名 真福寺善本叢刊<第三期>神道篇 (2) 麗気記	

1. 著者名 伊藤 聡、阿部 泰郎、落合 俊典、加藤 みち子、亀山 隆彦、末木 文美士、土屋 太祐、中山 一 磨、三好 俊徳、柳 幹康、吉原 浩人、米田 真理子、和田 有希子	4. 発行年 2018年
2. 出版社 臨川書店	5. 総ページ数 787
3. 書名 稀観禅籍集 続	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	鈴木 英之 (SUZUKI HIDEYUKI) (60367000)	北海学園大学・人文学部・教授 (30107)	
連携研究者	中山 一磨 (NAKAYAMA KAZUMARO) (10420415)	大阪大学・人文学研究科・招へい研究員 (14401)	
連携研究者	大東 敬明 (DAITO TAKAAKI) (20616916)	國學院大學・研究開発推進機構・准教授 (32614)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関